

大淵八王子の

井戸神様

平成九年八月五日号

大淵の八王子一丁目に井戸神様と呼ばれる大きな石の碑と十九個の小さな石の碑があります。

これは、水がなくて困った大淵地区の昔の人が井戸を掘り、水が出た十九の井戸の石を、水に感謝する意味で祭ったものです。

今回は、井戸神様のお話です。

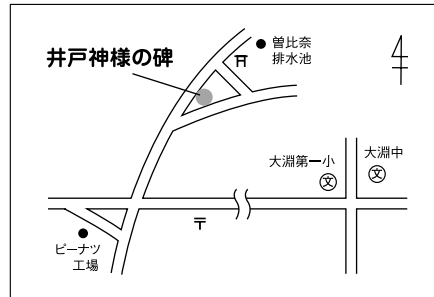
昔、大淵は水がなくて水なし村と呼ばれていました。雨が降ると、雨水をタンクや水がためにためて飲み水にしたり、洗濯やおふるに

使ったりしました。

それでも水が足りないの、小さい子どもたちも遠くの沢まで水くみに行きました。特に冬になると雨の降らない日が続く、野菜はしおれ、食べ物も少なくなってしまうほどでした。

そこで、みんなで深い井戸を掘ることにしましたが、苦労して掘っても水はほんの少ししか出ませんでした。

しかし、あきらめずに何年もかかってあちこちに井戸を掘り、水の出る井戸を十九もつくりました。村の人たちは「おいしい水をありがとう」と大喜びをしました。そして、井戸を掘ったときに出てきたたくさん石の中



から、形のよい石を一個ずつ選び、十九個の石を水の神様としてみんなで祭りました。

井戸神様の隣に住む

稲垣愛子さん（大淵）

私が聞いた話では、男の人たちが井戸をあちこちに掘ったけれど、水は全然出なくて、井戸掘りに反対する女の人たちと「次で水が出てこなかったらもうあきらめる」という約束をして掘ったら、水が出たということですよ。

子どものは年に一回、三月二十日に井戸祭りが行われていました。水への感謝の気持ちを込めて、井戸の底にたまった砂の掃除をしたんです。その日はお赤飯やお菓子が食べられて、とっても楽しかったです。ふだんは井戸の近くで遊ばないように言われています。井戸は大切に清潔にしておかなくてはならない場所だったからでしょう。

水道が引かれてから、井戸祭りは廃れてしまいました。時代の流れなのかもしれませんが、寂しいですね。



▶ 井戸神様の碑